

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501084		
法人名	有限会社 北海道ふれあいの家		
事業所名	グループホーム ふれあいの家・月寒		
所在地	札幌市豊平区福住1条1丁目9番24号		
自己評価作成日	平成22年10月25日	評価結果市町村受理日	平成23年1月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地下鉄福住駅より徒歩3分の住宅街の1画に古民家を改修し、庭には樹齢100年以上とも言われる大きなオオコノ木があります。夏のあついひには、その木の下で涼みおやつを頂き、街行く人と笑顔の挨拶を交わし、散歩の犬に「可愛い」と触れて喜びを笑顔にしている利用者と職員とが寄り添い、一つの気持ちになって7名定員の家庭的雰囲気の中で生活して頂いております。近くには大きなデパートがあり散歩道です。たまには、店の中を散策し、喫茶店でお茶をしてリハビリをしながら、きっとあった昔の生活を思い出していただいております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170501084&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成22年11月11日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

民家改修型の当事業所は、地下鉄駅から3分と交通の便に恵まれた閑静な住宅街に立地している。利用者は広い庭でガーデニングや野菜づくりを楽しみ、四季の移り変わりを実感できる環境の中で穏やかな日々を過ごしている。また、馴染みの商店から必要な食材を調達したり、近隣住民から野菜をお裾分けしてもらうなど、昔ながらの近所づきあいが行われ、地域との関係は良好である。栄養面や季節感に配慮した手づくり食にこだわり、利用者と一緒に調理や漬け物づくりを行うことで、これまでの暮らしの継続を図るとともに、残存機能の維持向上に努めている。重度化が進む利用者も含めて、夏は浴衣、正月は着物に着替えてハレの日を演出するなど、女性ならではの楽しみの提供にも工夫している。月に2回の音楽療法とともに、民家ならではの段差や階段昇降による生活リハビリも、利用者の心身機能の維持につながっている。「優しい思いやりの心」を理念に据え、利用者一人ひとりの状態に応じたきめ細かなケアサービスの実践に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケアサービスを提供するいみで、常に根本的な考え方に立ち戻る姿勢を心がけている。	これまでの「安全で、安心な生活」という理念に加え、新たに作成した「優しい思いやりの心」という理念に沿って、管理者と職員は、利用者の個性と尊厳を重視したケアサービスの実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩や買い物などに出かけ、地域の人たちと挨拶を交わし、話をしたり又、草花の根分け交換、野菜の作り方、「お汁のみに」と葉っ葉を頂くこともある付き合い。近隣の方には、非常災害訓練等の協力もある。	町内会に加入し、夏祭りや子ども神輿、民謡鑑賞などの行事に積極的に参加している。散歩や買い物の折には挨拶を交わし、窓越しに近所と声をかけ合うなど、地域の一員として交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の総会の出席、当番制の班長を引き受けたり、近所のかたのボランティアの受け入れ、人材育成の貢献として実習生の受け入れをしている。又、地域の人から認知症の相談があった時、アドバイス等を出来る限りのことをしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会での意見、検討事項の改善を経過報告をしている。又これまでの評価結果を踏まえ取り組みたい内容についても相談し、意見をもらうようにしている。	運営推進会議は家族、町内会役員、地域包括職員等を構成員とし、2ヶ月毎に開催している。会議では、事業所の運営内容や利用者の状況、評価への取り組み、災害時協力要請等、多岐にわたって意見交換し、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市、区の担当者と利用者、家族等の相談、運営の相談等を受け連携を深めている。	運営上の疑問がある時は、速やかに市や区の担当者と電話や窓口で相談し、助言を得ている。待機者の相談や見学を受け入れるなど、担当者と協働してサービスの質の向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	権利擁護、身体拘束とうの勉強会をする。その日、そのときの職員同士のケアを振り返り、言葉使い、支援の仕方等をミーティング、申送りで話し合い穏やかな暮らしを支えるようにしている。	管理者及び職員は、勉強会や拘束排除マニュアルで身体拘束の具体的な内容を正しく把握しており、互いに確認し合いながら身体拘束のないケアサービスに取り組んでいる。居間には玄関周りと庭が見えるモニターを設置し、日中は玄関を施錠しない工夫をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	機械あるごとに職員と話し合いをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度の勉強会をする。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事業所のケアに関する考え方、取り組み、退去を含めた事業所の対応可能範囲について説明を行っている。状態の変化等により契約解除に至る場合は、家族と相談し、その後の対応方針も含めて納得を得られるよう説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には、運営推進会議等の参加出席をお願いし、又来訪時には、意見、要望等を遠慮なく話してもらえよう常にその環境作りはしている。	家族来訪時には必ず声がけし、意見や要望を聞き取るように努めている。また、運営推進会議には2～3名の家族が出席して忌憚のない意見交換を行っており、出された意見は運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の要望意見は出来るだけ聞くように心がけているが、不満や苦情は言い難い部分もあると思うが、ミーティング、勉強会、食事会、個別面談等を行い意見、考え方を聞くようにしている。	食事会でコミュニケーションを図るとともに、毎月の会議や必要時に行うミーティング、勉強会、ホーム長との個別面談等で、職員の意見や提案を聞く機会を設け、事業所運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則等を整備し、処遇改善に努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に会った研修を受けられるよう計画している。職責を与え、各自が自身を持って勉強してもらうこととしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会等に参加し交流を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談で生活を把握するよう勤め本人からの言葉、感情を感じ求めていること、不安を理解するようつとめている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面談時には、会話だけでなく声のトーン等からも家族の心理を理解するように努めており、事業所としてどのような対応が出来るか、話し合いをしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の現状を理解して、当ホームに入所することで、本人・家族がより良い状態になるか、十分に話し合います。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩だという考えを職員が共有し教えていただき又その場面が次にあるよう工夫をする。利用者が出来ることを積極的にしていただき作法、料理、などの教えをこう。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら、日々の出来事や気付きの情報を提供をし、本人と一緒に支える為に、家族と同じような思いで支援していることを伝えていきます。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族など関係者が来訪した時には、居心地よく過ごせる雰囲気作りを心がけています。馴染みの美容室等のもいづつでも行けるように、配慮しています。	希望に応じて馴染みの美容室に出かけたり、親戚の家に泊まりに行けるよう支援している。家族と一緒に墓参りに出かけるなど、これまでの習慣を継続できる支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性や性格を見極めながら、良い関係が作れる様に声掛けや、必要に応じて職員が間に入る等の配慮をしています。又、心身の状態や気分・感情で日々時々変化する事もあるので、注意深く見守るようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した時でも、今まで通りの対応をし、「今後も、いつでも相談に応じます」と笑顔で声掛けしています。また、新しい住まいでもこれまでの暮らしが継続できる様に、プライバシーに配慮しつつ、情報を提供し連携して支援していきます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族面会時にも、本人の様子を家族から教えて頂き、利用者の言葉だけでなく表情などからも本人の意向や希望を把握するように、努めています。	生活歴や家族からの情報を踏まえた上で、職員は日々利用者に声がけて希望や意向の把握に努めている。意思疎通が困難な場合には表情を読み取り、本人本意に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴に関する情報を本人と家族から教えて頂き、利用者にとっての大切な出来事や思い出を把握するようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常を通して、利用者の方々の様子を見ながら、心身状態などを総合的に把握しています。利用者個々の生活リズムを理解すると共に、小さな行動からも感じ取り本人の全体像を把握するように努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	お互いの気付きや情報を活発に話し合い、職員全員で介護の方法や方向性について考えています。家族の訪問時には、自然な会話の中で介護計画について、意見を引き出すように努めています。	週1度勤務する計画作成担当者が職員と相談し、家族からの情報も反映しながら介護計画を作成している。家族への説明、毎月のモニタリングは計画作成担当者が中心になって行っている。	5月から計画作成担当者が交代したこともあり、作成後の介護計画について職員間の周知にやや課題が残る。介護計画を基にしたサービス担当者会議の実施と記録の整備を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルが用意されており、日常生活の様子や排泄・食事・水分量等、見やすく記録しています。介護計画の見直しの際には、日々の記録から評価しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族等訪問されたときには、その時々の時間帯で食事やおやつ等、利用者と一緒にゆっくり食べて頂いています。誕生会など企画して、家族と過ごす時間を作っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣住民や交番・消防署・地域の民生委員に働きかけ、お年寄りの安否の見守りなど連携しています。市事業によるオムツ券の活用等、介護保険以外の情報も把握し、家族に伝えています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族が納得した、医療機関を確保しており、利用者個々に合わせて、受診または往診を受けています。	利用者、家族が納得した医療機関に受診できるように支援している。週1回の看護師による日常の健康管理とともに、毎月の往診や職員による通院介助により適切な医療が受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康チェック等、利用者の日常の細かな変化などを申し送りや内部会議を通して、利用者一人一人のカンファレンスを行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には時折見舞いに訪れ、利用者の様子などを見に行きます。担当ワーカー等からも情報交換を行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に家族と本人に重度化した時・終末期についてよく話し合っています。話し合いの内容は職員に周知しています。主治医との連携を密にして、早い段階から家族にも連絡しています。	重度化や終末期について事業所として対応できる最大限のケアについて、利用開始時に本人や家族に十分説明している。主治医と連携を図り、状況変化時の対応方針を職員や家族と共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防隊による救命救急法の研修を通じて、応急手当を行える学習をしています。利用者個々に合わせた、急変時の対応について、話し合いがされており、内容は職員全員で共有しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者を含めた避難訓練をしています。地域の方々との協力関係作りの為に、職員・利用者は積極的に挨拶をし、馴染みの関係を築ける様に努めています。	消防署の指導のもと、年2回利用者とともに昼夜を想定した避難訓練を実施するとともに、毎月自主訓練を行っている。今年度は地域住民の訓練参加や緊急通報の協力が得られ、地域との協力体制を強化している。	災害時に備えて非常用食料や毛布等、備品の確保が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人にとってプライバシーや誇りに配慮に配慮した声掛け・対応をしています。個人に関するメモ等を放置しない他、破棄する時はシュレッターにかけています。居室に出入りする際は本人に声掛けをし了解を得てから入室しています	利用者一人ひとりに応じて、尊厳を損ねない接遇に努めている。個人情報とは所定の位置に保管している。第三者への情報提供同意書を利用時に家族と取り交わし、個人情報を適切に取り扱っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中から本人の思いを引き出すような声掛けをしています。誕生会等企画する時には本人や家族にメニューの希望を聞く等して、出来る限り意向に添っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人が出来ることは、時間がかかってもして頂き、職員は本人の様子を見守りし、必要時声掛けや介助をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、身だしなみを整え、メイクなどもしています。正月や七夕に着物や浴衣の着付けをしています。訪問美容室や近所の美容室へ出掛けるなど個々の対応をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者それぞれの出来る事を見極めて、その日のメニューを考えながら調理や盛り付けを支援しています。食事は職員と一緒にテーブルに座り、会話をしながら食べ、好み等を聞いたりしています。	利用者それぞれの能力に応じて、調理や盛り付け、片付けを職員と一緒にやっている。行事食や日常の献立にはできるだけ利用者の好みを反映し、菜園で採れた野菜を利用するなど、食事を楽しむ雰囲気づくりにも配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人一人の体調を考慮し、一日の水分摂取量を記録しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科診療を受けています。利用者の状況に合わせて、毎食後口腔ケアをしています。生薬入りの歯磨き粉を使っている方もいます。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄介助は本人のプライドに配慮して行っています。利用者個々に合わせた排泄介助・声掛けをしています。日中・夜間・外出時など用途に合わせてリハビリパンツやオムツを使い分けています。	利用者個々の排泄パターンを記録し、仕種や素振りに注意しながら、プライドを損ねない排泄介助に努めている。また、さりげない声かけや時間誘導で、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	記録などを確認して主治医や看護師に相談しています。他、水分摂取など乳製品や寒天等、繊維質の多い食品を取り入れている。体操やレク等で適度の運動も行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の順番は利用者同士の話し合いで決めています。入浴剤を使い、十分に温まって頂き、香なども楽しんでいます。洗身時に足浴もして温めています。地域の銭湯や温泉にも出掛ける事もあります。	週2回程度の入浴を基本とし、日々の体調に配慮しながら入浴支援をしている。入浴順を利用者が決めたり、入浴剤を利用するなど、気分良く入浴できるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後居間のソファや自室などでゆっくり横になり、それぞれのペースで休んで頂いています。天気の良い日には布団を日干しして、入床環境を整えています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の処方箋が添付された服薬管理簿を作成し、職員全員が薬の内容を把握できるようにしています。薬が変わった時や臨時薬が処方された時は申し送りや伝達して職員全員に周知しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴や能力を十分に見極めて、個々の力を発揮できる様な、役割や楽しみ事やリクレーションを支援しています。庭に野菜を植えたり、庭の花を使って花を生けたり、ピアノを演奏する方もいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩など、本人の体調と天気に合わせて積極的に外出しています。家族と外食や買い物へ出掛ける方もいます。	天候や体調に配慮しながら、利用者の希望に応じて買い物や公園、町内行事に出かけている。車椅子の人も庭に出て外気浴やティータイムを楽しむ等、できるだけ戸外で過ごせるよう支援している。また、家族と外食や買い物、墓参りなどに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	定期的に本人や家族に出納確認する上で、財布(お金)を自己管理してる方もいます。本人や家族と話し合いの上で金銭出納はホームで管理してるが、家族に了解を得ている金額のみを財布に入れて自分で持ってる方もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の状況に合わせて電話の対応の支援をしています。家族に宛てて、年賀状やお便りを書いて頂いています。字の読み書きを忘れないように、本を読んだり、自分の名前を書く練習をしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が多くの時間を過ごす、居間では、窓辺の強い日差しが眩し過ぎないように、レースのカーテンを二枚付ける等配慮しています。温度や湿度に注意をして空気清浄機や除湿機、加湿器などを置いてその都度、使い分けをしています。居間に自分で作った四季の工作などを飾っています。	利用者の多くは明るい居間で過ごしており、温度や湿度、日射は適切に調節している。窓辺の花鉢や手づくり作品、日本人形や利用者の写真など、季節感や生活感のある装飾も適度で、家庭的な落ち着いた空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間以外のちょっとした空間にも、椅子などを置き、思い思いの場所でくつろいで頂いています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には、本人の使い慣れた筆筒やベット、置物、仏壇など馴染みのある物を、持ち込んで使って頂いています。本人の好みの絵や写真を飾ったりしています。	居室には利用者の馴染みの家具や仏壇、生活用品などを自由に持ち込み、使い勝手に配慮して配置しており、それぞれが居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の好む場所や椅子の配置など、むやみに移動しないようにしています。夜中でも迷わずにトイレに行ける様にトイレの電気は点けたままにして、戸も開放しています。自室が解かる様に暖簾に名前を付けたり、居室入口に表札を付けたりしています。		